

平成 22 年第 4 回定例会（12 月）一般質問

（2）行政に町民の意見を取り入れる手法について（主に一般公募）

○ 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 2 点目の質問に入ります。行政に町民の意見を取り入れる手法について、主に一般公募についてですが、若干その先のことについてもお伺いします。

行政に町民の意見を取り入れる手法の中で、一般質問の必要性と意義は平成 20 年第 2 回定例会での一般質問、各種協議会等の活性化についての中でお互いに確認済みであるというふうに認識しています。しかしながら、一般公募への取り組み方がまだまだ不十分ではないかと感じています。そこで実際はどの様になっているのか、最近一般公募のあった「月形町未来を考える委員会」の場合を例に募集経緯と結果、それから定員充足のための取り組みについて、現実的に私の調べた範囲では一般公募の定員が 5 名に設定されていたわけですが、実際は 1 名しかいなかったというような情報を得ていますので、その辺も含めてその定員充足のための取り組みをどの様にされたのかについてお伺いしたいと思います。

○ 議長 吉田 義一 町長。

○ 町長 櫻庭 誠二 募集の経緯と経過、定員充足のための取り組みについては担当課長より説明させます。

○ 議長 吉田 義一 総務課長。

○ 総務課長 三浦 淳 まず、「月形町未来を考える委員会」の募集につきましては、先ほどから議員ご指摘のように 9 月 21 日発行のお知らせ号にて募集をしたところでございます。応募期限は 10 月 5 日までとして、応募条件は月形在住の町民、年齢は 18 歳以上の方、5 名以内ということで、募集したところですが、1 名しかあいにく応募が無かったということになります。その後、募集をしているかということになりますと、それについてはしておりません。

○ 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。

○ 議員 宮下 裕美子 今の答弁で私の認識と同じだということが理解できましたので、結果的に一般公募が重要だというふうにおっしゃっていながら、21 日のお知らせ号では、10 月 5 日までの実質 2 週間程度の公募、それもお知らせ号に一度載せたきりであって、その後予定した人員を確保できないにも係わらず、その後の募集が無いということで、一般公募の重要性を認識しているのか甚だ疑問に感じます。先ほど町長が最初の

1点目の質問の時に、一般公募の中でそれら若年層、子供を持つ世代の方々であったり、就業間もない方々に対してどうなのかという質問に対してそれらは一般公募の中でとおっしゃっていたわけですが、それらに対する働きかけが無いままに、ただ、応募が無かったからそれで終わりというのであれば、そこに対する取り組みが不十分だというふうに感じます。一般公募がなぜ必要かということは、第1に新たな視点を町政に活かすために、町民の中にある意見を広く集める一つの手段だからです。第2に普段町政に係わりの薄い町民や町政に強い関心がありながら、組織に属していない町民を委員とすることで、町の実態を認識してもらい行政と町民の新たなパイプ役となってもらう広報の一つの手段だからです。特に「月形町未来を考える委員会」は将来に向けた政策提言が目的であり、新たな視点を町政に取り入れることが重要と考えます。つまり、町民の中にある意見を広く集める必要があるわけで、今回の場合は特にお知らせ号に書かれているように、一般町民の代表となる委員の募集ではなく、町民の誰もが対象の一般公募であるべきで、十分な周知が必要になります。

ここで視点を変えまして、町民の気質について考えてみたいと思います。町内では様々なイベントがあって、その周知と集客のためには数回に渡りチラシを折り込み、町内各所にポスターを掲示し、口コミ等も使います。それでもなお当日の参加者が予定数を満たさないイベントもあります。このように自らが積極的に参加することが少ない町民性がある以上、これを理解した上で委員を募る必要があるのではないのでしょうか。

これら町民の気質と今後の一般公募への取り組み方について、町長はどの様に考えているのかお伺いします。

- 議長 吉田 義一 町長。
- 町長 櫻庭 誠二 公募をする意味合いは、そのとおりだというふうに私も理解しているところでもあります。この最初に決めました其々の関係機関からの推薦以外の人たちの部分については、公募でやりたいということで、先ほどの質問でも答弁したとおりの状況でもありますが、残念ながら、宮下議員の言われるこれからを担うという意味での幼稚園の保育士や幼稚園・保育園に預けているお子さんの保護者という方々からは、参加が無かったというのは事実であります。ただ、私はこの公募で出てくる人たちの意識として自らが積極的に行政のそこに携わるのだという意欲の無い人については、これは参加を強制的にしてもらうということは一般公募という意味合いからは外れるのだと感じていますし、PRの手法、集め方の手法が悪いから今の状況であるとは考えられないところでもあります。16年にまちづくり審議会が起きた時には、12名の公募人数に対し12名の方々が応募をしたという経過があります。その後の「月形町の地域新エネ

ルギービジョンの策定委員会」の時には2名のところを1名しか応募が無かったということもありましたし、月形町総合振興計画の審議委員についても3名の応募を求めたところでもありますが、実際は1名しか手を挙げてくれなかったというような実態的な状況があります。今回につきましては、5名以内ということでありまして、5名の定員という枠を決めたところではありません。自らが本当に真剣になって、私達のまちづくりの審議への参加をしてもらう人を募集したところでもありますので、私としてはこの人をもって今回の応募については打ち切るということと考えておりました。

気質という部分につきましては、宮下議員が言われたとおりでと思います。以前にも宮下議員とお話した時にも言いましたが、私達のまちには、例えば今回の代表になっている日赤奉仕団、更生保護女性部の皆さんなど色々な団体がありますが、会員の募集を真剣に行っているが、実際はほとんどの団体で会員が集まらないという実態であります。しかし、そういうところからもきちんと委員を出してもらうという形では協力をしていただいておりますが、今、私達のまちが真剣に考えなければならないというか、町民の意見を聞くという部分で人口がこれだけ減少してくる状況の中で、公募委員ということではなくて、もっと具体的なところで町民が職員との日常の会話の中でその意味を汲み取っていくというシステムが必要だろうと思いますし、そのことが可能な人数が今の私達の人口の規模になっていくのだと考えております。

- 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。
- 議員 宮下 裕美子 今の答弁で町長の考えは分かったのですが、先ほど一般公募の部分に触れて自らが参加したいと思う方が参加してもらわなければ、本来の趣旨を全うできないというお話でしたが、例えばこの委員の充て職というか其々の組織に依頼して出てきた人たちは、必ずしも皆さんそれぞれが積極的に町政に参加しようと思って出てこられた方なのか、その部分は、私は必ずしも図りかねると、もちろん出てこられた方が一生懸命になるのはもちろん分かっていますが、そういうふうに必ずしも充て職があってそれから出てくる委員である以上、それと一般公募の人がきちんと自らが出てこなければならないというのは、必ずしもリンクするような話ではないというふうに思います。問題は先ほども言ったように、広く町民の意見を吸い上げることが目的で、積極性うんぬんというよりも町民が普段生活している中で感じる些細なことも含めた中で取り上げることが重要ではないかと思えます。ですから、公募が無かった場合に、その後もう少しPRをするなり積極性をもって声かけをするそういうことを通じて、ちょっと躊躇していた人が自分も役に立てるかもしれないと思い参加する場合もありますので、その辺は認識をできれば変えていただきながら取り組みが必要ではないのかと考えます。

先ほど最後のところで町長が職員が日常の業務の中でこのような公募に頼らず、色々なことで町民の意見を吸い上げるそういうことができる人口であったり規模であったりというお話をされていまして、その点に関して行政に町民の意見を取り入れる手法には私も一般公募以外にもあると考えています。今回2つの会合を例にとらせていただくのですが、例えば、まちづくり懇談会ですが、11月の後半に町内各所で行われましたが、私が参加した懇談会の雰囲気は、さながら一方的な行政報告会だったように思います。IP告知など行政的な周知の場であることは充分理解できますが、それと同時に町民から意見を引き出すための話題提供や会場作り、雰囲気作りも必要なのではないのでしょうか。また、この場で未来を考える委員会の一般公募の呼びかけなどあっても良かったのではないかと考えます。また、各種団体への会合の参加ですが、行政報告を見ると理事者は町内の様々な会合に出席しています。理事者に限らず担当課の皆さんもそれぞれの担当分野の会合に出席していることでしょうか。会合出席の折りに行政に対する町民の意見収集などは実際行われているのでしょうか、またそこで挙げられた意見は充分反映されているのでしょうか。何かあれば役場にご連絡くださいという呼びかけはよく耳にしますが、行政側が出向いて意見の把握に努めることも町民の意見を取り入れる手法として重要と考えます。既存の仕事の幅を若干広げることで対応可能なことだと考えますが、いかがでしょうか。

以上、行政に町民の意見を取り入れる手法のうち、一般公募以外の方法として町づくり懇談会の活性化と各種団体の会合での意見収集について提案してみましたが、これに対して町長はどの様に感じ、今後どの様に対応していただけるのでしょうか。また、これ以外の方法で何か検討されているものがあれば示していただきたいと思います。

- 議長 吉田 義一 町長。
- 町長 櫻庭 誠二 まちづくり懇談会その他の対応について宮下議員の言われるとおり今後についてもしっかり検討していきたいと思っておりますし、私が代表として出席する其々の組織でのお話の中では、かなりの部分で後ほどで懇談会もというような話もありますから、そういうところではしっかり私も話を聞いてきたつもりでもあります。1点、今回の其々の代表委員の皆様がやる気の無い人もいるのではないのかというお話もありました。私は今回の未来を考えるまちづくりこの委員になられた方については其々の組織の中で、「現在、こういうことが行われてます。こういう話し合いをしています。」というような意見を集約をしてくるという意味での役割を担ってくれるならば、この人数の皆さんでお話しすることが、10倍、20倍になって会議の中で充足したものになるのだろうと考えております。

- 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。
- 議員 宮下 裕美子 若干、最後のところでもう少し詰めたいのですが、よろしいでしょうか。
- 議長 吉田 義一 発言を許します。
- 議長 吉田 義一 宮下裕美子君。
- 議員 宮下 裕美子 まちづくり懇談会と会合の関係については理解しましたので、取り組める部分については取り組んでいただければと思います。最後の代表委員の関係のところですが、やる気の無い方がいるとかそういうことは私は申し上げておらず、ただ、システムの中でそれらの充て職があるということに対する疑問を呈したということです。ただ今の答弁の中で、その組織の代表委員の方々が組織の意見を集約してくれるのであれば、より広がるというお話だったのですが、どうして、組織、組織というような考え方になってしまうのか、先ほどいくつ目かの答弁の中で、町長は色々なボランティア団体だったり、組合の団体だったり色々な会員を募集しても実質は入る人が少なくなって、会員の規模が縮小されているという現実の中で全体を考えた時にその組織に入っている人というのは、もちろん様々な分野で活躍されていて有意義ではあると思いますが、全体の中における人数自体はどんどん少なくなっているわけです。もちろんその方々の意見も重要なのは理解できますが、それと併せてその組織に入られていない方々の意見を集約する場が必要で、それがこの今回の未来を語る委員会の中で重要になると私は考えていたわけですが、その部分のところの答弁が、一般公募も含めてですが、若干足りなかったもので、町長はその組織以外の方々の意見はどのような形で吸い上げて集約するのか、その点だけお伺いし、終わりにしたいと思います。
- 議長 吉田 義一 町長。
- 町長 櫻庭 誠二 私は組織にこだわっているわけではなくて、宮下議員が組織から代表で出ている人たちが、積極的にこの委員会に参加するのですかという話の中で、私はそういう答弁をしたところでありましたし、私は町民の意見を広く聞くという部分では、日常的に職員を含めてアンテナを広げてやっていきますというお話をしたところでもあります。
- 議員 宮下裕美子 了解しました。